

とことんエコツアー

募集対象／小学4年生～6年生 活動日／平成22年11月6日（土）～11月7日（日）（1泊2日）
実施団体名／特定非営利活動法人 体験村・たのはたネットワーク
構成員数／100名 子どもゆめ基金助成回数／7回
連絡先／〒028-8402 岩手県下閉伊郡田野畑村北山129-10
TEL：0194-37-1211 FAX：0194-33-3355 E-MAIL：taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp

活動の概要

自然と調和して暮らしてきた漁村の営みを体験してもらいます。そしてその体験を切り口に環境について考え、議論し、より深く理解してもらう為の1泊2日のプログラムです。



漁船体験：ガソリンは使わず手こぎでエコ



断崖トレッキング

活動の日程・内容

11月6日（土）		11月7日（日）	
午前	集合・移動・開会式・参加者交流ゲーム	午前	森林体験ネイチャーゲーム 断崖冒険トレッキング 魚料理体験
午後	番屋探検・漁船体験・移動・夕食		
夜	エコワークショップ（ストーブ燃料と環境について） 星空観察・入浴・就寝	午後	昼食・エコワークショップ（フードマイレージについて） 閉会式・移動・解散

漁村の実際の暮らしを見て、体験する活動のポイント

【番屋探検】：漁師が実際に使用している番屋が25軒集めた番屋群を、オリエンテーリング式に探検します。
【漁船体験】：漁師が実際に漁を行う漁場を見に行き、漁船を手で漕ぐ体験をします。
【断崖トレッキング】：豊かな海を育み、薪と酸素の供給源でもある森林を探索します。
【番屋料理】：近くの海で獲れたばかりの魚を漁家のお母さんの指導と一緒に番屋で捌きます。
番屋・漁船は、すべて実際に使用している本物を使い、体験してもらいます。そのことで、参加者には偽りではない、本物の漁村の暮らしを体感させることができます。

体験を切り口に環境について考え、議論する活動のポイント

【何がエコなのか】：番屋では薪ストーブを暖房や調理に使い、また断崖の上の森林を歩いたことにより、参加者は森林が薪の供給源であることを認識します。そこで暖房燃料について、薪・電気・灯油と3種類を比較し、それぞれの流通や環境への影響を考え、議論します。
【環境への影響】：漁船で漁場を見学し、番屋料理体験では近くで獲れた魚を捌いて食べる体験。そこで、食料の流通や調理方法について考え、議論します。
答えではなくヒントを与えることで、子どもたちはじっくり考え、深く議論することができます。

活動のねらい

田野畑村で営まれている自然と調和した暮らしを体験し、自然とともに生きていることを子ども達に実感してもらいます。また、環境に深く関心を持ち、ただ「エコ」と言われることをよく考えずに実践するのではなく、それが環境にどのような影響を与えるかを子ども達が自分自身で多角的に考えることができるようになってもらいたいと思っています。



活動の成果

活動を通して、子どもたちの温暖化問題や資源循環、オゾン層破壊など様々な環境問題に関する意識を深めることができました。
参加者アンケートによると、「家でCO2の話をして、電気をこまめに消すようになった」という報告があり、活動の経験を生活で実践してもらえていることがわかりました。また、漁場実際に見て自分で魚を捌いて食べた経験で、これまで魚を食べなかった子が魚を大好きになったという例が複数ありました。参加者の多くは沿岸地域在住者であったため、地域環境の見直しにつながり、また地産地消の促進にもなりました。



この活動を実施したことによる団体の成長

これまでも暮らしの営みの体験プログラムを実施していましたが、今回の事業を通じて、より環境に着目したプログラムを展開できるようになり、プログラムの幅が広がりました。



環境に優しい燃料は？



番屋料理体験

活動の課題

- 一部参加者には難易度が高かったようなので、わかりやすく伝えて、上手にヒントを与える工夫をする必要があります。
- 子どもたちが積極的に発言し、議論ができるような雰囲気づくりが必要であると感じました。
- 体験活動時、大人がつい手を貸してしまいがちであったので、子ども達に自主的に行動させ、大人は見守ることに徹するようにしたいです。

今後の展望

平成23年3月11日の東日本大震災による大津波により、漁港や番屋など、体験に必要な施設や資材の多くが流失してしまいました。現在復興中ですが、今後は施設や物資を失った現状の中で、いかに体験プログラムを再開または再構築し、三陸の自然の素晴らしさや、過去にも津波を乗り越えてきた暮らしのことを伝えていくかを模索中です。

団体の概要

陸中海岸国立公園にある田野畑村の雄大な自然と、そこで営まれる自然と調和した人の暮らしを体験プログラムとして一般観光および教育旅行で提供しております。体験観光という手段により、地域経済の振興や他の地域住民との交流、地域文化や自然の再発見と保護などを目指しています。

磐梯自然教室 実施団体／一般財団法人 横浜市母子寡婦福祉会

- 活動期間／7月13日（土）～7月15日（月） 宿泊1回 2泊3日
- 活動場所／猪苗代湖天神浜、天鏡台、国立磐梯青少年交流の家
- 募集地域／横浜市
- 募集対象／小学生（1～6年生）、中学生、高校生、保護者
- 募集方法／その他（横浜市のひとり親家庭対象のメールマガジン）
- 構成員数／10人



カヌーで出発！



ジャガイモの皮むきに挑戦！

●活動のねらいとポイント

自然豊かな福島で、魚のつかみ取りや野外炊飯を実施することにより食育及び食の安全を体験させます。また、仲間と共に川や山などでの自然体験をさせることをねらいとしています。

具体的なプログラム名	主なポイント
カヌー体験	母と子では、なかなか体験できないダイナミックな活動（カヌー体験）をすることで、挑戦することの楽しさや湖の怖さなどを学ぶ。また、親子や仲間と一緒に体験することで協力することの大切さを学ぶ。
天鏡台ハイキング	普段見ることのない大自然の中をハイキングをしながら、自然の美しさを感じるとともに熊などの脅威と共存して生活する厳しさを知る。その中で、自然や生命の尊さ大切さを学ぶ。
野外炊飯（カレー）	火のおこし方から調理の仕方、最後の後片付けまでを工夫・協力しながら体験する。生活力と共に協調性を育む。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】参加者は全員、保険に加入。事前に施設等と連絡を取り、ハイキングのコースの危険箇所の確認や、必要な処置（催行前に熊よけ）を行ってもらう。また、各体験を行う前に、参加者に注意事項の確認をする。
【健康管理】参加者各自保険証（コピー等）を持参してもらう。また、しおりに常備薬、虫害対策（虫よけスプレー）の持参や長袖長ズボンでの参加）などを記載し注意喚起をする。救急箱、熱中症対策でペットボトル準備等。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7/13	7：30	桜木町駅集合
	12：30	猪苗代湖天神浜着
	13：00	カヌー体験
	16：00	磐梯青少年交流の家着 入所式
	17：00	つどい
	17：30	夕食
	18：45	時給体験
	21：00	入浴
	22：30	就寝
7/14	6：30	起床
	7：00	つどい
	7：15	朝食
	8：00	掃除・荷物移動
	8：45	天鏡台ハイキング、昼食（お弁当） 魚つかみ取り
	15：30	野外炊飯（カレー） ※磐梯青少年交流の家の敷地内でテントキャンプ
	20：00	花火
	21：00	入浴
	22：30	就寝
7/15	6：30	起床
	7：00	つどい
	7：30	朝食
	8：15	掃除
	9：30	退所式
	16：00	桜木町駅着・解散



カヌー体験



自然を観察しながらハイキング
～何があるかな～

●団体概要

【設立年月】 昭和31年5月
【URL】 <http://www.zaibosi.org/>
【設立の経緯】 昭和26年戦災未亡人等の救済と自立への努力を図るため、任意団体「横浜市みのり会」として発足。物資の斡旋販売や公共施設内・売店での販売による収益金で事業活動を行ってきました。昭和31年公益法人の認可を得、財団法人「横浜市母子寡婦福祉会」に変更し、その後、平成24年一般財団法人「横浜市母子寡婦福祉会」へ移行しました。
【目的】 ひとり親家庭の生活の安定と子供の養育環境の向上に寄与することを目的として活動しています。（包括的な就労支援事業。親子の体験事業。事業を通して仲間づくりの場の提供など。）
【構成】 理事長以下役員9名・事務局及び職員50名・他20名の団体構成員

